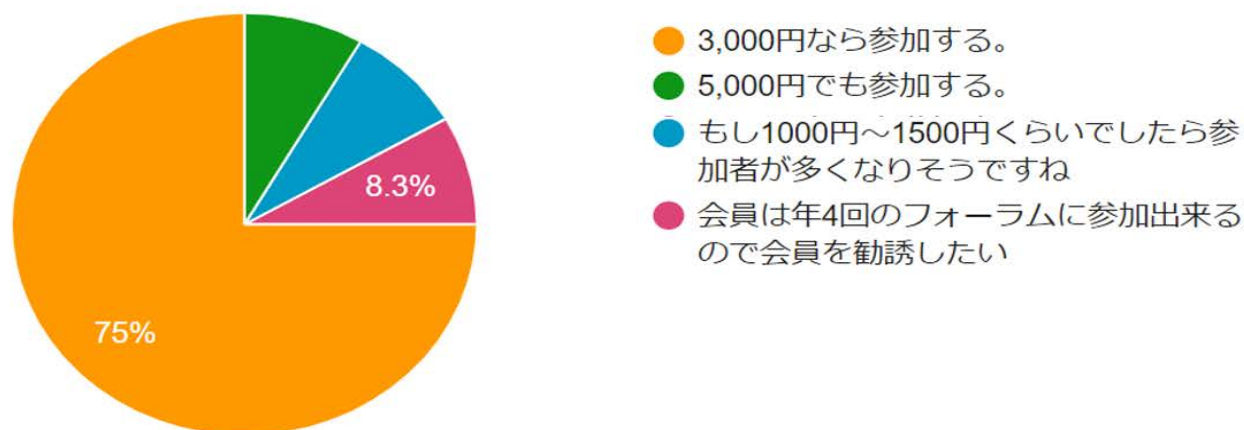


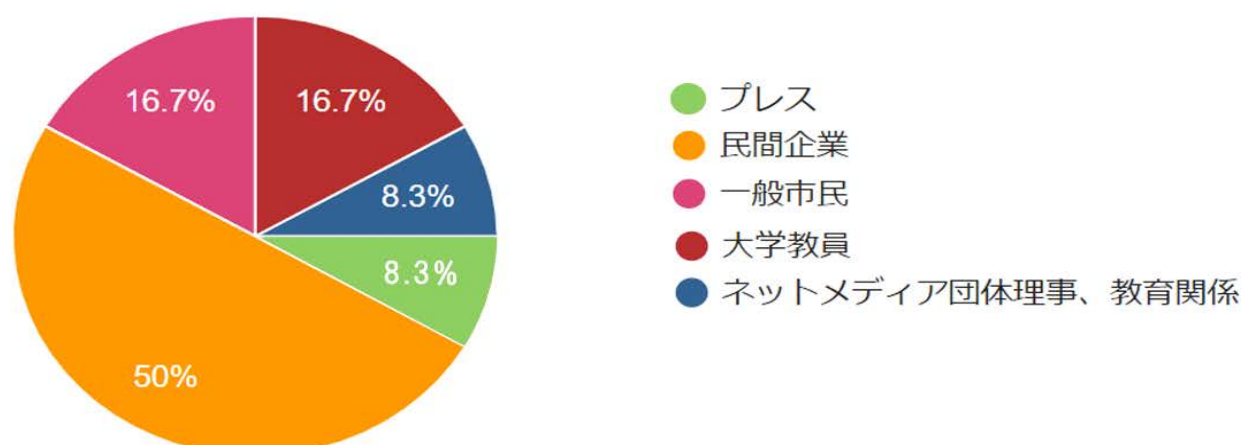
今回のフォーラムの参加費（NPOへの賛助）についてどう思われますか？

12件の回答



ご職業についてお答えください。

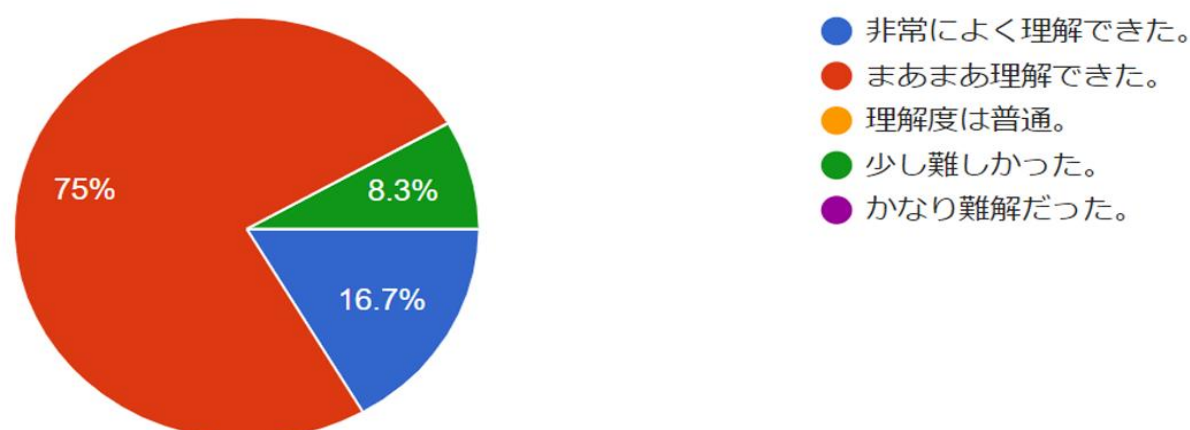
12件の回答



① 伊藤 浩志(学術博士) 『住民の放射線不安は過剰なのか:安全と安心の関係を見直そう』

ご講演内容の理解度についてご回答ください：①伊藤 浩志（学術博士）『住民の放射線不安は過剰なのか：安全と安心の関係を見直そう』

12件の回答



ありがとうございました。リスクコミュニケーションの在り方に日々戸惑うというか悩むことが多く、ご講演で多く得られたと思います。時に相手が攻撃的だったり突然の問いかけであった場合、こちらの準備不足もあり同じ温度帯か上回る状態で説き伏せようとしていたように思います。最後のパネルディスカッションでもいくつか大切なキーワードありました、小さな茶話会、フラットな関係。誰も取り残さない為に工夫と準備が必要と痛感いたしました。

リスク認知に非言語的要素が大切なことがよくわかり面白い講演でした 慢性的なリスクの認知と社会的ストレスの関係はたしかに重要とおもいます

科学ではなく感性の側面から安全安心を考察している事大変参考になりました

当事者にとって、健康リスクに影響を及ぼす要因として新しい視点で重要な話を聞くことが出来ました。実際に実施するには大変なところもあるが、大変参考になりました。

脳の仕組みが安全・安心に寄与しているとは、本当にびっくりしました。何度も聴きたい講演です。

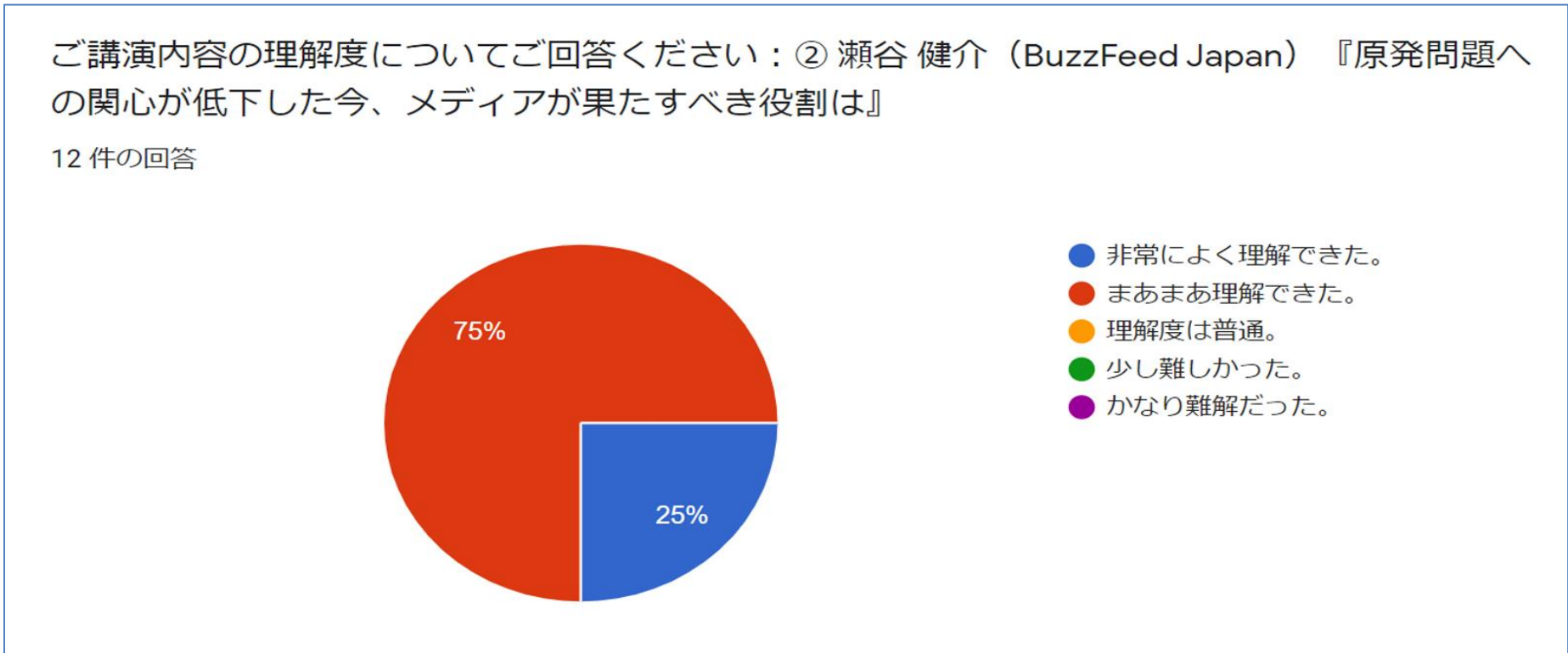
コミュニケーションの現場で日頃から感じていた事に理論的説明を与えて頂いたようで、霧が晴れた思いでした。

これまでとは異なった視点の問題提起をされ、非常に興味深く拝聴しました

安全と安心の考え方については、今までの理解とは違う新しい概念でした。

福島に寄り添った研究に感謝いたします。

## ② 瀬谷 健介(BuzzFeed Japan) 『原発問題への関心が低下した今、メディアが果たすべき役割は』



恥ずかしながら自らの関心も薄れていたように思います。記事改めて拝読いたします。現在のCOVID-19でも過去の報道経験が活かされていないと後に一部のメディアより反省の弁がありました(トイレ紙騒動)報道の在り方で食品の基準自体が迎合したものになる可能性もある。

わかりやすい講演でよかったです 伝えたい情報の切り取り方と、情報の受け手の関係はさまざまです 多くのメディアが自分の視点から情報を伝えることが社会全体のリスク認知のレベルを上げていくと思いました

多くのメディアがメディア先入観に基づく情報発信が多い中で瀬谷さんの客観的な姿勢での発信に共感しました

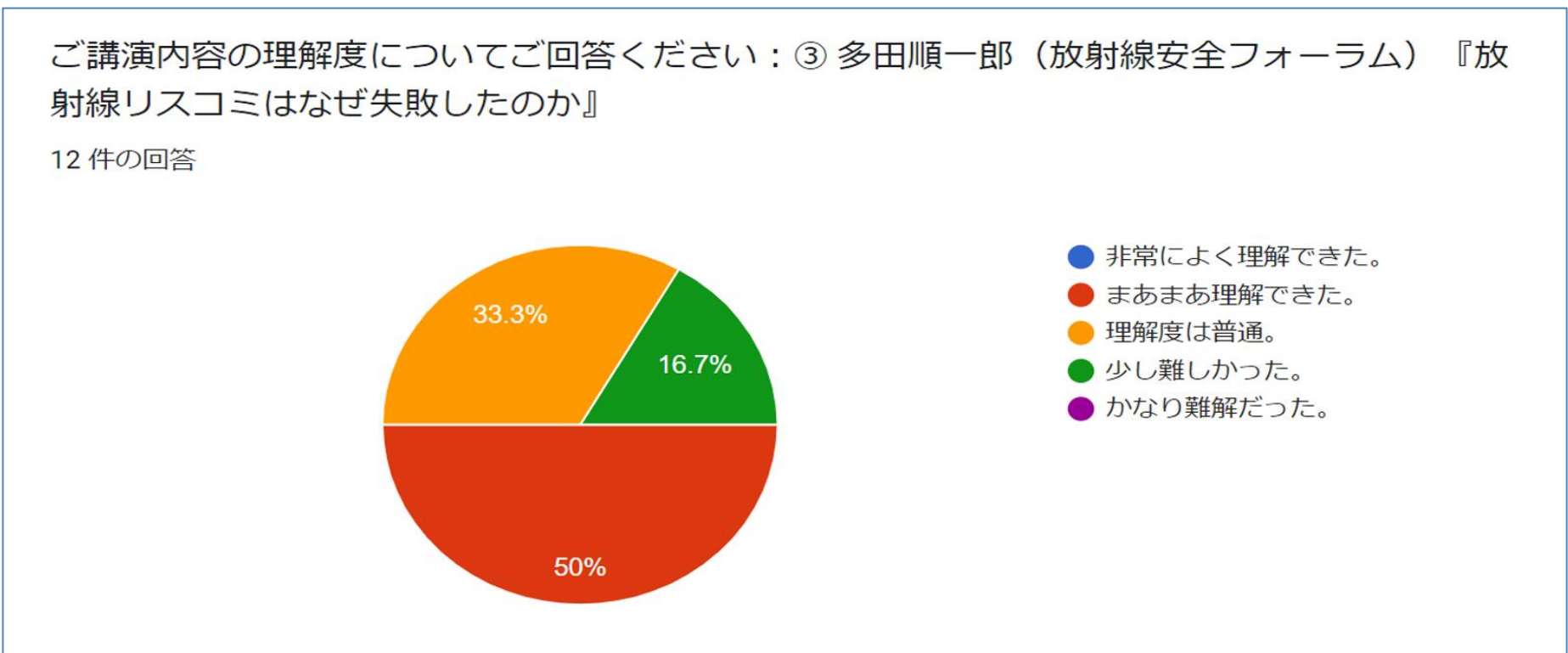
現地がどのような状況にあり、こういった問題点を抱えているか、そしてそれに対するメディアの役割が良い点もあれば発信の仕方によっては悪い影響を与えることになるなど気づきが多くありました。

自信满满でなく、苦悩し戸惑い手探りしながら発信を重ねておられる姿勢が、何より心強いです。引き続き、頑張ってください。

ニュースの発信側の使命感、伝えるむつかしさが理解できました。

発信した情報への反応の分析は、非常に参考になります。

## ③ 多田順一郎(放射線安全フォーラム) 『放射線リスクミはなぜ失敗したのか』



いま使われている放射線防護の考え方のご説明や、専門家として当時を振り返った反省点など興味深く拝聴しました 低線量放射線によるリスクについては科学的に不確実な部分があると聞きます そのあたりもう少しうかがいたかったです

放射線の科学的事実を知り大変良かった、福島事故当時にメディア報道、大手スーパー等事業者の対応に苦勞し疑問を持っていた私にはうれしい講演でした

リスクミを巡る伊藤先生とのご認識の《ズレ》自体が、この問題の難しさを何より雄弁に物語っているように感じ、示唆的でした！

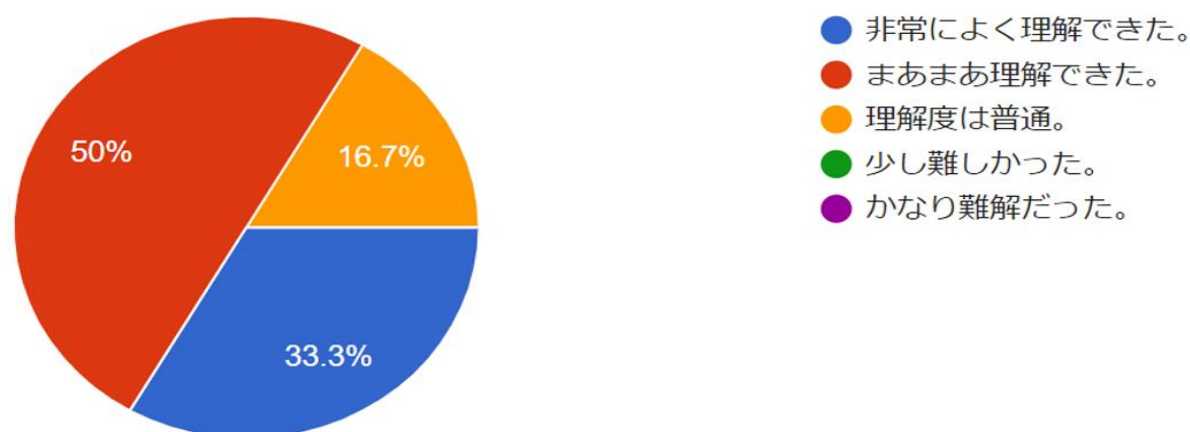
放射線が理解しづらいという理由がわかったような気がします。とくに放射線は「量の概念」が難解で、リスクコミュニケーションを難しくしていると感じました。

放射線の難しさゆえの誤解も多いと理解できました。



ご講演内容の理解度についてご回答ください:④パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)「低線量放射線被ばくのリスキミ～福島復興支援のために～」

12件の回答



(初めて視聴いたしました)パネルディスカッションに十分な時間があり、パネラー以外も自由に議論が交わされていました。WEBだったからでしょうか?おかげで講演内容の理解が進みました。

伊藤さんのお話のメインはリスク認知の考え方のご提案だったのに対して、多田さんのお話は放射線リスク評価の体系をメインに話されていたような気がします

感性・メディア・科学の角度からの講演を同時に聞いた事は自分自身は無意識にあるバイアスを補正してくれました

参加者からの意見も活発で非常に興味度高く話を伺うことができました。

ディスカッションが活発になったと思います。(参加できなくて済みません)

ご指名いただき、ありがとうございます。長く喋りすぎてしまい、申し訳ございませんでした。

スマートリスクコミュニケーションの活用を検討したいと思います。

◆今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。

テーマは「放射線被ばく」ではあるが、現在置かれている状況(COVID-19)にも通じる場所があった。皆が不安のなかで政府の政策で十分な効果が得られていない(信頼関係が構築されていない)

原発事故汚染水処理水の問題について、時宜にかなない現状をいろいろな角度から考えさせてくれるよい企画でした 今後のメディアの報道、科学者や非専門家の発言など興味深く注視していきたいとおもいます

S.F.S.Sのフォーラム講師のバランスの取れた選択に何時も感銘しております

原発事故発生当時から状況が変わっており、当時と同じ関わり方やコミュニケーションの取り方では難しいことが良くわかりました。

伊藤先生のお話はとても興味深い内容でした。できればもう一度伺いたいと思います。例えば、小島さんとの対談形式など、どなたかとのやり取りが入ると、さらに分かりやすくなると思いました。

(還暦の私も含め)参加者の平均年齢の高さを感じましたが、そんなことはありませんか? リスキミは、若い層と十分に縁のある話の筈なのに…

3名の方々が、すべて現場から得たことをお話しされ、コミュニケーションのありようというよりは、自身の放射線に対する関心が薄れていることに気づかされました。

震災から10年の節目にこれまでを振り返り、今後を考える取り組みが必要かつ重要だと改めて感じました。

◆今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか?。

福島で起こっていることを分析頂き、改善に向かう取り組みを継続し、全国や世界の参考になるような情報発信について一緒に考えて頂ければと思います。

◆低線量放射線被ばくに関するリスクコミュニケーションのあり方について、どうあるべきでしょうか?。

放射線防護の基本的な考え方は、施設や作業時間などを想定するとされ、処理水の海洋放出に関して問題となるリスクの科学的な評価や対策はカバーしきれないのではないかとおもいます 低線量放射線のリスクについて、①防護の考え方からいえること、②現在の科学的水準でいえること、③現在の科学で不確実な部分を整理し、伝えて社会に共有する工夫が大切とおもいます リスキミは専門知識をブレイクダウンするだけでなく、受け手の主観的で多様な認知からフィードバックして情報が循環するループシステムをつくるべきとおもいます 風評被害という言葉は、リスクがないのにリスクがあるという風評が立つ(←すべて払拭すべき)という場合と、存在するなんらかのリスクが誤解・過剰反応される(←リスク認知を修正すべき)という場合とがあり、混同して混乱したような議論を見かけると気になります

食べ物の自然信仰と並行した、天然放射線は安全だが人工放射線は危険、という誤解が根強いのではないかと。信仰面とは別のファクト面に限っても2つ言える:(1)食べ物に似た面:バックグラウンドはリスクがあっても問題にせず、加わる部分だけに極度に緻密な議論が始まる。食品の発がん性など典型、旧来食品の安全性をGMレベルで精査したら食べるものがなくなるのに、食経験から100%信用されている。(2)食べ物と似ていない面:地球創生期の膨大な放射性核種は46億年を経て40Kのような極めて長寿命の核種だけが残っている、長寿命ということは放射能(壊変頻度)が低い…ので天然の放射線は安全という錯覚を生む。しかし、40Kは存在する濃度が極めて高いので放射能は低くてもその影響は人工放射能(137Csなどは短寿命-高放射能-だが存在濃度が低い)に劣らない、つまり天然は安全というのは錯覚(ということ認識されていない)。

自然界の放射線と比較して福島事故の放射線リスキミに加えて、福島事故の放射線対策の過去と今後についてレビューと対応の現状をリスキミすることがメディア・事業者・消費者に対して有効と考えます

大学の食品安全学の授業では、必ず放射線被ばくの話を一コマ入れるようにしています。学生さんたちは、結構素直に聴き、理解してくれます。福島出身の学生さんは喜んでくれます。そういった対象に訴求していくことを地道に続けることが大切ではないかと思えます。

べき論も結構ですが、「こう話したら通じた」「こう言ったら逆効果だった」といった各人の極めて具体的な成功&失敗談の交換・集積が、次のパワポを磨いていくのだと思えます。

福島県で生活する方々や避難している方々に理解いただく機会の一つとして海洋放出について、これまでのリスクコミュニケーションの経験を生かして官民一体となった取り組みを実践していくということも大変有効な実証になるのではと考えました。

**◆今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください。**

よかったです ありがとうございます

今回は通信回線良好でした

特に問題なく拝聴できました。

どこにいても伺えるという点では、有効だと思います。その後に、つながることができる機会をSFSSさんに協力いただければと思います。先生方の議論を素人が拝聴できるのは、貴重な機会だと思います。

**◆備考(SFSS事務局へのご要望・通信欄)**

お疲れ様でした。ありがとうございました！